

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



# 豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第10-②号 R1. 12. 15

## 京都東山開晴館 教育委員会先進校視察研修 その2 (令和元年11月20日(水))

### 《学校紹介—東山開晴館②》

京都市立小学校条例及び京都市立中学校条例による学校名は「京都市立開晴小中学校」である。

敷地は、洛東中学校の跡地。校名は地域や保護者、児童・生徒から公募し決定された。



(感想抜粋—PTA 役員 阪本さん)

「開晴小中学校」は地域との一体感を高め、住民と共存しているというアピールもされておりました。近隣に地域文化財の寺や有名な作家を多数輩出した陶芸家の母校とし、後世の児童に地域性や卒業生への憧れや尊敬の念を受け継ぐ。また、そのような環境を魅了させ、他より招き入れる体制が整っている事へのアピールもされておりました。

前号に引き続き、京都市義務教育学校「東山開晴館」の視察内容をご紹介します。



給食をつくられている調理員さん

(感想抜粋—吉川中学校 板倉校長先生)

小中一貫校になるということは、今までの学校が少し大きな規模になるということではない。学校というものの概念が変わってくる。そのためには、学校自体の在り方を先進校からしっかりと学んで検討することが大切と感じました。小中一貫校を創るということは、児童生徒数の課題解決のためではなく、本町の子ども達にどのような教育を受けさせたいのかというビジョンをしっかりと持つことだと思います。そのためには、本町の子どもたちの課題をしっかりと把握することが大切と再認識しました。

(感想抜粋—ふたば園 大西園長先生)

設備が整い明るく工夫された環境。他の参加者の皆さんと同じく、素敵だと感じました。参加者も設備の良さは実感し望ましいと感じており、素敵な建物・設備を見ながら、こんな風な建物になるといいなと期待が膨らみました。

小中一貫校イコール目の前の環境を想像してしまい、現実から離れてしまう感があった。実際には、どの程度の環境整備が可能であるの、また何を優先して整えていくのか。町の予算では、どれくらいのもので考えられるのかわからないが、現場の意見や親の思いがかなうものでありたい。

(感想抜粋—PTA 役員 荒木さん)

9年間を6年(小学生)と3年(中学生)に区切るのではなく、せつかく9年間一貫なので…と言う事での3ステージ制という考え方。1年生から4年生を『基盤型成期』5年生から7年生を『充実発展期』8・9年生を『自己確立期』とするもの。一般に最上級生だからと6年生に取りまとめをお願いする要件を、4年生に任せていく。いろんなことを頼んでいくと、精神的に目覚ましく成長がみられる学年だと言う事でした。4年生・8年9年生は確かに精神面で変化を感じる学年だと思うので、一番興味をひかれたお話でした。

当日は、大変お忙し中、校長先生をはじめ教頭先生、教職員の皆さんなどたくさんの方々にお世話になりました。誠にありがとうございました。



廊下から見渡せる職員室



広々とした体育館



1年生から9年生のお便り